

令和7年度秋田県水産振興協議会 議事要旨

- 1 開催日時 令和7年3月19日(木) 13:30~15:30
- 2 開催場所 秋田地方総合庁舎4階 402・403会議室
- 3 出席者 **【委員】**
 - 堀内 満也 (八峰町長) [会長]
 - 菅原 広二 (男鹿市長)
 - 杉本 貢 (秋田県漁業協同組合代表理事組合長)
 - 船木 律 (秋田県海区漁業調整委員会 会長)
 - 伊藤 徳洋 (秋田県漁業士会 会長)
 - 菊地 勇 (秋田県内水面漁場管理委員会 会長代理)
 - 中川 大志 (株式会社タカヤナギ生鮮部長)
 - 高橋 笑子 (生活協同組合コープあきた 地域理事)
 - 河越 厚子 (秋田県栄養士会 常務理事)
 - 高橋 一孝 (公募)**【事務局】**
 - 小林 信康 (水産振興センター所長)
 - 斎藤 和敬 (水産振興センター 総務企画室長)
 - 柳原 陽 (水産振興センター 増殖部 研究員)
 - 高橋 俊行 (水産漁港課長)
 - 三浦 信昭 (水産漁港課 政策監)
 - 秋山 将 (水産漁港課 調整・振興チーム チームリーダー)
 - 福田 姫子 (水産漁港課 調整・振興チーム 主査)
 - 鈴木 快 (水産漁港課 調整・振興チーム 主事)
 - 戸坂美沙子 (水産漁港課 調整・振興チーム 技師)
 - 安田 七海 (水産漁港課 調整・振興チーム 技師)
 - 加賀谷康太 (水産漁港課 調整・振興チーム 技師)
 - 藤田 学 (水産漁港課 漁業管理チーム チームリーダー)
 - 伊藤 雄汰 (水産漁港課 漁業管理チーム 主事)
 - 渡辺 亮 (水産漁港課 漁港漁村整備チーム チームリーダー)
- 4 議 事 (1) 令和7年度主要事業の実施状況について
(2) 令和8年度施策・事業の概要について
(3) アカモク増養殖の取組について(取組事例発表)
(4) 消費・安全対策交付金事業の事後評価について

○ 議事（１）を説明した後の質疑応答

高橋（一）委員 新規就業者が増加するのは喜ばしいことだが、漁業者の高齢化が進んでいる。廃業者の人数はどうなっているか。

福田 主査 漁業センサスによると、平成 30 年の漁業者は 773 人だが、令和 5 年には 630 人であり、5 年間で 143 人減少している。

菊地 委員 三倍体サクラマス種苗の養殖業者へ対する提供状況はどうなっているか。

中林 所長 令和 6 年度は 7 つの業者に提供しており、令和 7 年度は提供の実績はないものの、いつでも提供できるような状況にある。

菊地 委員 県の担当者が代わる場合、一から業務に取り組みなければならなくなる。それを考慮した上で、継続性のある取組を実施していただきたい。

船木 委員 キジハタの県資源量はどのような状況か。

秋山 TL キジハタの漁獲量は近年少しずつ増加している。関連事業として、資料 1 の 3（１）秋田版次世代型漁業構築事業にて、キジハタかご漁業の試験操業を実施した。

三浦 政策監 県のキジハタ漁獲量は、5 年前は 350kg、令和 6 年は 1 t、令和 7 年は 1.7t であり、温暖化の影響等によって増加していると思われる。

菅原 委員 トラフグの養殖には期待している。現在の状況について伺いたい。

三浦 政策監 昨年 7 月に 597 尾を生け簀に入れ、12 月に 512 尾を引き揚げている。生残率は 85.8%で平均重量は 848g である。ただ、市場においては 1 匹 1kg 以上でなければ単価が低い実状がある。生残率は良好である一方、平均重量を増加させることが課題となっている。また、養殖したトラフグを高単価で購入してくれる業者を探す必要がある。

堀内 委員 トラフグを生け簀に入れる時期はいつ頃になるのか。

三浦 政策監 6 月から 12 月である。この理由としては、水温が低くなる前に引き揚げなければいけないことと、サーモンとトラフグの養殖時期が被らないようにするためである。

高橋（一）委員 トラフグを調理する際に、免許等は必要になるのか。

三浦 政策監 秋田県においては、秋田県食品衛生協会が実施する試験により取得することができる資格が必要である。

菅原 委員 トラフグの養殖が成功した場合、民間の業者に任せることも検討しているか。

三浦 政策監 事業化が可能な段階になった際には希望する業者を募り、補助金等によりバックアップすることを考えている。

菊地 委員 クニマス飼育試験の状況はどうなっているか。

中林 所長 水温の変化による成熟条件を調査しているが、尾数の関係もあり、現状では有意義な結果は得られていない。引き続き西湖に近い環境下で調査を進めて

いく。

菊地 委員 クニマス増殖技術の確立は難しいのではないかと。今後、民間への委託などを考えてもいいのではないかと。検討をお願いする。

○ 議事（２）を説明した後の質疑応答

菊地 委員 アユは漁協運営にとって非常に重要な魚種である。今年度は放流用の稚魚が５月末から６月に確保できなかった。今後は、県内産だけではなく県外産の稚魚の放流も考えるべきではないかと。

斎藤 室長 15年ほど前は、9月下旬頃から採卵していたが、近年は成熟が遅れ10月以降から行っており、結果、放流時期も遅くなっている。さらに、今年度は、アユ養殖業者の廃業で、思うように親魚確保が進まず、十分な量・サイズの種苗生産ができなかった。次年度以降は、親魚確保の多角化を進め、稚魚の安定生産を行いたい。

藤田 TL アユ種苗については、漁協関係者の会議等で度々お伝えしているとおり安全とされる県内種苗を導入するよう要請している。

船木 委員 秋田のサケ資源造成特別対策事業について、令和8年度予算額も令和7年度と同額ということで引き続き頑張ってもらいたい。

○ 議事（３）を発表した後の質疑応答

菊地 委員 ギバサとジバサの違いについて教えてほしい。

柳原 研究員 これらは種類が異なる海藻でありギバサはアカモク、ジバサはホンダワラである。

三浦 政策監 ギバサは県内全域で食されており、それに対してジバサは主に男鹿市を中心に食されている。ジバサの方がキロ単価は高いが、需要はギバサと比較して少ないのではないかとと思われる。

○ 議事（４）を説明した後の質疑応答

河越 委員 水産用医薬品の適正な使用とはどういったものか。

柳原 研究員 魚種毎に使用する薬品が異なるため、養殖業者に対して適切に記録するよう指導を行っている。

○ その他

河越 委員 新規漁業者の育成だけでなく、今従事している漁業者へ支援する必要があるのではないかと。

堀内 委員 八峰町の話になるが、漁船に用いる燃油高騰分を漁業者へ支援している。今

従事している漁業者への支援が重要であることは理解している。

高橋 課長 県では、省エネ化事業としてエンジンを換装する際に要する費用に帯する補助を補正予算にて実施している。

菅原 委員 男鹿市でも漁船に用いる燃油高騰分を漁業者へ支援している。

菅原 委員 五里合のクルマエビ養殖について、早いうちに事業化してほしい。市や県の補助だけでは限度があるので皆様の力もお借りしたい。

高橋(一)委員 他県では、近年あまり獲れていなかった魚種が復活したという事例もあるが、秋田ではそういった明るい話題はあるか。

杉本 委員 アジについては大型化している傾向が見られる。大型化した場合は単価が上がるため漁師にとってメリットがあるが、小さい魚がいないと今後の漁獲量が減少しないか心配なところもある。

以上